

保健指導情報システムによる活動と評価

○泉 ^{いずみ} ゆかり、清水 美樹、高橋 正宏((財)郡山市健康振興財団健康センター)
大櫛 陽一(東海大学医学部)

健康診断の結果をデータベース化しカラーグラフに表示する事で保健指導を効果的に行える。この指導を通じて受診者の自覚と行動変容を促しライフスタイルの改善へ結びつけている。今後もシステムをより充実させ活用していく事で疾病の予防に寄与すると考える。

【保健指導の実際】 当施設の事業所健診システムは東海大学医学部医学情報学教室との共同開発として、平成2年より始まった。結果出力、集計システム、病名登録システム(病歴・家族歴)保健指導画面、フォローアップシステム等順次進められた。端末は、「NEC PC-9821NX」のノート型パソコンで施設内はオンラインでUNIXホスト(NEC EWS4800)と接続される。個人データをノート型パソコンに転送し施設外での使用も可能である。

保健指導は、健康診断受診当日の検査終了時に、全受診者を対象とした個別指導である。指導画面は、「データ」「時系列グラフ」「レーダーチャート」の3種類があり、受診者の過去の全検査データが登録されている(図1、2)。又、「基本情報」「病歴・家族歴」「各種事業実施状況」等の画面も必要に応じて使っている。

【アンケート調査】 受診者の反応を確認するために郵送による自記式アンケート調査を実施した。対象は、飲酒や肥満等の生活習慣との関連が強く示唆される肝機能異常者127人で、66人から回答を得た(回収率52.0%)。自分のデータに関心があり、保健指導を積極的に受け入れている人が多かった。更に62.1%が健診後に何らかのライフスタイルの改善を試みていた(表1)。

【まとめ】 アンケート調査の結果、時系列グラフを用いた保健指導は、受診者の関心が高く指導の受け入れも良好である事が確認された。受診者自身がデータを経年的に見て傾向を捉える事で行動変容への動機付けとなり、ライフスタイルの改善へ結びつくとし唆された。今後も継続的な関わりを通し望ましいライフスタイルの獲得を支援する事で疾病の予防につながると考えた。

当施設の保健指導時の問題としてリアルタイムでデータの説明ができない点がある。これを補う為に要医療者へは時系列グラフとコメントを作成し、書面による指導を行っている。更に充実させる為に、ノートパソコンを持参しての「訪問指導」も可能であるが現在要請はない。今後利用者のニーズを捉え地域での活動を展開していく事が課題である。また、受診者が必要時自分のデータが閲覧できたり、健診録に住所・氏名を打ち出す等、利用者へのフィードバックも必要であると考えられる。

表1

時系列グラフへの関心	
関心あり	63 (95.5)
関心なし	3 (4.5)
保健指導の受け止め方	
肯定的	62 (94.0)
否定的	2 (3.0)
どちらでもない	2 (3.0)
指導後の行動変容	
変化あり	41 (62.1)
変化なし	25 (37.9)
行動変容の継続性	
継続	30 (73.2)
中断	5 (12.2)
無記入	6 (14.6)
人数 (%)	

図1 レーダーチャート

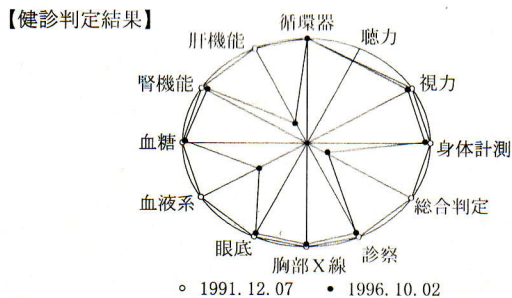


図2 時系列グラフ表示

